

## 令和5年度第2回伊勢原市教科用図書採択検討委員会

令和5年7月12日(水)  
伊勢原市役所 2C会議室  
午前9時00分 開会

- 事務局 ・令和5年度第2回伊勢原市教科用図書採択検討委員会を開会する。
- 委員長 ・挨拶
- 事務局 ・ただいま10名の御出席をいただいている。伊勢原市教科用図書採択検討委員会設置要綱第6条2項に基づき、過半数の御出席をいただいているので、会議は成立する。
  - ・資料の確認を行う。本日お配りした資料は、こちらの会議資料の冊子である。
  - ・また、事前にお手元にお届けした資料は、「小学校用教科用図書調査研究の結果(令和6・7・8・9年度用)平塚地区、秦野地区、伊勢原地区、大磯地区、二宮地区版」、「教科用図書研究結果の結果(令和6・7・8・9年度使用)」(神奈川県版)、「中学校用教科用図書調査研究の結果(令和3・4・5・6年度用)」である。
  - ・教科書、編修趣意書、学習指導要領を、机の上に置かせていただいている。教科書は種目ごとに事務局担当が入れ替えるので、必要に応じて御覧いただきたい。
  - ・第1回検討委員会では、伊勢原市教科用図書採択検討委員会設置要綱について、教科書の定義等について、伊勢原地区教科用図書採択の流れについて、神奈川県令和6年度義務教育諸学校使用教科用図書採択方針等について、御説明させていただいた。
  - ・本日の会議資料2ページにある「令和6年度伊勢原市立小中学校使用教科用図書採択方針」について、改めて確認をする。(読み上げ)
  - ・学習指導要領には、各教科の特徴や内容等が書かれている。
  - ・以上の点等を踏まえて、本日の検討協議を進めていただきたい。
  - ・この検討委員会は、静ひつな環境の下で採択事業を行うために非公開となっているが、公式な会議のため、記録を取り、会議録をホームページで公表することを御承知おきいただきたい。また、情報公開の請求があった場合、これに応じることも前回と同様であるので、併せて御承知おきいただきたい。
  - ・教育委員会では採択に当たり、本日の検討委員会での検討協議内容を参考にするため、教育委員が委員長の許可を得て出席しているため、御承知おきいただきたい。
  - ・では、進行は、第6条第1項に基づき、委員長に議長をお願いする。
- 議長 ・委員の皆様には、本検討委員会の趣旨を御理解いただき、適正かつ公正な採択のための検討が行われるよう、御協力をお願いする。
  - ・本日の進行について、事務局より説明をお願いする。

○事務局 ・初めに、令和6年度に使用する中学校の教科書について、事務局から説明をさせていただく。次に、令和6年度から小学校で使用する全ての教科書について、検討をお願いする。

・まず、調査員が、伊勢原市、平塚市、秦野市、大磯町、二宮町の共同調査研究の結果に基づき報告する。その後、報告についての質疑の時間を取り、終了した時点で調査員は退室する。調査員の退室後、検討委員の皆様へ検討に入らせていただく。必要が生じたときには、調査員に再度入らせていただき、質問することもできる。なお、理科、生活科の信州教育出版社については教科書見本が送付されていないので、県の調査結果のみとなる。御承知おきいただきたい。

・また、この場合は各検討委員から十分に意見を出していただき検討する場であり、教科用図書を1種類に絞る性格のものではない。結果的に、ある発行者もしくは幾つかの発行者への意見が多くなるということは考えられる。全ての教科書ということで、時間的な限りもあるので、検討委員会としての方向性が幾分見えたところで、検討を終了する。

○委員長 ・まず、中学校の教科書について、事務局より説明をお願いする。

○事務局 ・義務教育諸学校の教科用図書無償措置に関する法律施行令第15条第1項の規定より、基本的に同一の教科書を4年間採択しなければならないとされている。

・第1回検討委員会の際に配付した「中学校用教科用図書調査研究の結果」は、前回採択替えがあった令和2年度の調査研究の結果である。既にお目通しいただいていると思われるので、繰り返し読み上げることはしない。

・中学校用教科書の採択について、令和4年度に採択したものと同一の教科書を採択しなければならないこととなっているので、資料でお示しした「伊勢原市立中学校使用教科用図書一覧」のとおり、採択を行うこととなる。

・令和4年度に採択をした中学校教科書について、1種目ずつ確認をさせていただく。(読み上げ)

・なお、保健体育の発行者については、教科書見本では「株式会社学研教育みらい」となっている。令和4年10月1日より、「株式会社Gakken」に社名が変更となっているので、御承知おきいただきたい。

・中学校教科用図書に関しては以上である。

○議長 ・事務局の説明に対して、何か御質問や御意見はあるか。なければ、中学校の教科書についてはこれで終わりたいと思う。

・小学校の教科書検定に入る前に、準備の時間を取る。準備完了後、小学校の教科書の検討に入る。

(調査員入室)

○議長 ・準備ができたので再開する。

・次に、小学校の教科書の検討に入る。採択については、教育委員会が令和6年度伊勢原市立小中学校使用教科用図書採択方針に基づき採択を行う。そのために必要な事項を調査・検討することが本検討委員会の役目となる。伊

勢原の子どもたちにとってふさわしい教科書、使いやすい教科書を検討していただきたい。

## 国 語

- 議 長 ・まず、調査員から報告をしていただく。国語の教科書は3者から発行されている。それでは、報告をお願いします。
- 調査員 ・報告（「小学校用教科用図書研究結果（令和6・7・8・9年度用）平塚地区、秦野地区、伊勢原地区、大磯地区、二宮地区版」のとおり）

### 【質疑】

- 委 員 ・子どもの語彙を豊かにするための工夫はあるか。
- 調査員 ・東京書籍では、実際の中で使える語彙を増やすように「言葉相談室」が巻末の「言葉の広場」と関連して学ぶことができるようになっている。教育出版では、「言葉の道具箱」の中に、「言葉の木」や「学ぶときに使う言葉」という形で巻末に一覧で示されている。光村図書も、「ことばの宝箱」やキャラクターがわざと間違えて、言葉について考える内容が掲載されている。
- 委 員 ・調査員として何か印象に残っている各者の工夫はあるか。
- 調査員 ・各者、2次元コードを用いていた。教育出版では「学びリンク」という形でいろいろなウェブサイトへ飛ぶことができるようになっていた。東京書籍では、アルファベットを練習できる等、実際に児童が使える内容も入っていた。光村図書では、発表や話合いの動画資料等や作家へのインタビュー等が入っていた。また、SDGsや未来について考えるという視点が、今までよりも全体的に増えた印象がある。
- 議 長 ・ほかに質問はあるか。  
《なし》

（調査員退室）

### 【検討】

- 議 長 ・それでは、感想や御意見をいただきながら検討を進める。
- 委 員 ・国語の教科書全体を見て、漢字の学習については、三者とも、既習の漢字を使って、絵を見て文や文章を書くページが設けられていた。その中で、光村図書は「新聞記者になったつもりで書きましょう」といった具体的な設定があり、言葉の使い方や使う場面を理解するには効果的な工夫があると思った。また、東京書籍では、同じ部首の漢字や対になる言葉等も同じページで紹介されており、漢字の学習が幅広くなるような工夫がされていると思った。
- 委 員 ・私は読書活動の充実というところを見て、各者共、図書館、図書室を計画的に利用する等、読書活動の充実を図る工夫があると思った。また、教育出版は、いろいろな図書紹介、図書カードを作る等、作成を通して友だちに本を紹介する学習活動があるのが良いと思った。東京書籍は、様々な分野の著名人が読書のことについて良さを伝えている内容も読んでいてとても良いと思った。また、光村図書は、読む単元に関連した本が紹介されている

ページがあつたり、巻末の「本の世界を広げよう」で、テーマを設けて、それに沿った本が紹介されていたり、読書活動の例も示されていて、豊かな読書活動につながる工夫があると思った。

○委員 ・三者とも、低学年では昔話を中心に扱われており、学年が上がるにつれて、それが俳句や短歌、古典文学の紹介というふうになっていく。伝統的な言語文化に工夫がされているというのは三者共通しているように感じた。特に光村図書は、低学年から継続的に伝統的な言語文化に触れられるよう教材が配置されており、「季節の言葉」の中で短歌や俳句の紹介があり、年間を通じて伝統的な日本文化に親しめるように配置されていると思った。特に、教科書の中の「鳥獣戯画」のようなものを分かりやすく示し、それがアニメーション作家が描いているという点では、非常に時代を越えた共通性が示されているところが優れていると感じた。

○委員 ・情報活用能力という視点で見ると、例えば、東京書籍では、情報を見極めながら、「読む」単元の後に情報を活用して「書く」単元が配置されており読むことと書くことを連携して指導できるようになっていると感じた。また、光村図書では、学校での日常の問題を例にして、問題解決のための情報整理の仕方を図解しており分かりやすいと感じた。また、「図を使って考えよう」という巻末、折り込みのページが、考えを広げたり整理したりするときに役立つと感じた。

○委員 ・国語においては言語活動の充実が大切だと考えており、各者とも様々な工夫がされている。光村図書は、「読む」という単元において、学習の進め方が分かりやすく示されており、見通しを持って学習できるのではないかと考えた。東京書籍は、ノートづくりの工夫がされている。ノートづくりは、記録とか要約といったところで言語活動の根本的な活動になると思うが、全学年に「国語のノートの作り方」が掲載されており、それによって学習を進める上で見本やモデルを参考にすることができて、分かりやすいと考えた。

○議長 ・活発な意見をいただき感謝する。各者それぞれに特徴や良さがあったことを報告させていただく。

(異議なし)

○議長 ・これで、国語の検討を終了する。

## 書 写

(調査員入室)

○議長 ・書写の教科書は3者から発行されている。それでは、報告をお願いする。

○調査員 ・報告(「小学校用教科用図書研究結果(令和6・7・8・9年度用) 平塚地区、秦野地区、伊勢原地区、大磯地区、二宮地区版」のとおり)

### 【質疑】

○委員 ・書写の授業で学んだことは、生活の中に生かせるのがとても大事だと思っている。何か印象に残る工夫等はあったか。

- 調査員 ・光村図書の6年の電子メールというのが、今の時代に必要なところ。文字の配列とかそういうのも気をつける意味で、相手に伝わりやすいように、掲載されているのが38ページ。通信文を見てもよいかこの辺りのところが良いと思った。
- 委員 ・適切に運筆する能力の育成というところで、教えていただきたい。東京書籍と教育出版は「トン」「スー」「ピタ」、光村図書は「ツー」「トン」という呼び方。筆圧の数字があるのが教育出版。各者微妙に違いがあると感じる。実際に子どもたちに教える中で、授業の中でどのように工夫しているかや、今言ったような違いをどのように、どちらが使いやすいということはあるか。実際の授業を思い浮かべて少し教えていただきたい。
- 調査員 ・まず、穂先の向きというのを児童には注目させるようにしていることが多い。光村図書では「穂先ちゃんシール」というのがついていたたり、穂先のキャラクターがあったりする。ほかの発行者も、顔が描いてある等の特徴もある。力の入れ方としては、横画の書き方が、1のとき、2、3のときというふうに掲載されているが、こういうところに注意しながら、力の入れ具合を指導していくことが多いと思う。「トン」とか「スー」とかという言い方は、教科書に書いているが、多分、それぞれの先生の言い方で指導していると思う。
- 議長 ・ほかに質問はあるか。  
《なし》

(調査員退室)

#### 【検討】

- 議長 ・それでは、ただいまより検討に入る。御意見や御感想をお願いします。
- 委員 ・3者に共通している特徴として、学習の進め方や学習過程が児童にも分かるように、はじめに提示されている。練習してから清書するという繰り返しではなくて、まず、試し書きをしてから、その中で課題を見つけて、その課題を意識しながら練習する、そして、最後にまとめ書きをするという流れに三者ともなっていると感じた。
- 委員 ・全ての発行者に、1年生の初めに鉛筆の持ち方が書いてあるというところが良いと思った。やはりこういうところでしっかりやっておかないと、持ち方というのはなかなか難しいところ。慣れてしまうと直すことは難しいので、それぞれに工夫がされていて良かった。東京書籍や光村図書は、子ども側から見た向きで鉛筆を持った手と押さえる手のイラストが大きく描かれていたのが印象的で、児童が書くときに姿勢や手の位置について分かりやすく書かれていて、とても子どもたちにとっては理解しやすいと思った。
- 委員 ・毛筆については、どの発行者もこういうふうに朱墨で書かれているので、筆の始筆、送筆、終筆、そういうのがきちり書かれており、三者ともとても分かりやすい。その中で、毛筆ではないが、光村の場合は、1年生等で字の良い例と悪い例がきちんと書かれているところがあり、一目でどこが良いのか悪いのかというのが分かるので、とても良いと思った。

- 委員 ・どの発行者も、水書用紙という用紙が入っている。水をつけた筆で書くと黒くなるというもの。筆を使って書くので、初めや終わりの筆の向きやはらい、そんなことを意識して学習できると思っている。また、乾けばこれは何回でも書けるので、失敗してしまうという抵抗がなくて、取り組みやすいと思っている。その中で、光村図書については、中心線の入ったマスのある用紙が入っているというのが一つ工夫だと思った。
- 委員 ・各者とも、調査員の報告のとおり、扱う題材として、低学年では親しみのある名前とか日記を扱い、中学年では暑中見舞いや手紙の書き方、高学年ではパンフレット等の書き方を扱っているという点が、日常生活に即して使えるものという点で、題材がとても良いと思った。光村図書と教育出版については、筆記具の特徴を調べた上で、それらを話し合っ、それを生かせる教材を扱えるように書かれているところが、他教科との関連も踏まえ、とても結びつきがしやすく良いと感じた。
- 委員 ・今日の会議資料にもあるが、中学校の採択では、書写と国語の発行者が違う。中学校は、特に発行者の違いで支障はないと考えているが、小学校は今までは一緒だったということもあり、この辺の関連性について、支障がないかどうかというのをちょっと教えていただきたい。
- 委員 ・国語と書写が同じ発行者の場合、例えば、掲載されている漢字の配列や文例等が対応しているので、学習しやすい面はある。ただ、異なっとしても大きな問題はないのではないかと考える。
- 議長 ・活発な意見をいただき感謝する。各者それぞれに特徴や良さがあつたことを報告させていただく。  
(異議なし)
- 議長 ・これで、書写の検討を終了する。

## 社 会

(調査員入室)

- 議長 ・社会は3者から発行されている。それでは、報告をお願いする。
- 調査員 ・報告(「小学校用教科用図書研究結果(令和6・7・8・9年度用)平塚地区、秦野地区、伊勢原地区、大磯地区、二宮地区版」のとおり)
- 【質疑】
- 委員 ・3者とも、「つかむ」「調べる」「まとめる」とか、「発見」「追究」「解決」だとか、そういうカテゴリーを示しながら教科書がつくられているということだと思うが、実際、小学校の授業の中で、教科書をどのように活用されているか教えていただきたい。
- 調査員 ・まず授業の中では、高学年が多いのだが、どの学年でも、最初に教科書に載っている学習問題について、子どもたちがどのような問いを持つのかというのをスタートとしている。社会の単元は特に、地域とは違う題材も載っているので、教科書に沿った題材であれば、同じような問いが出てくるけれども、そうじゃない場合は、地域の問題とかということを問いにしてい

くので、結局、問いからその後どうしたら良いのか、じゃ次調べるんだよねみたいな流れを、教科書で確認しながら、実際の授業の中ではこの流れと少し違う内容だとしても、流れをくんでやっているということで活用する。

○委員 ・教科書にはいろいろな工夫があると思うが、社会科としては、実生活の中で生かしていきたいし、学んでいきたいというところの思いが強いと思うが、調査をされていて印象に残っている題材や各者の工夫点等があったら、ここはというのがあれば教えていただきたい。

○調査員 ・日本文教出版は、先程言ったようなSDGsが必ず単元の最後にあるので、そこに常に立ち戻っていけるし、自分たちの生活に戻っていけると思う。教育出版は、最後、「みんなで作った新たな学習問題」というページがあり、結局、この学習をした後に、終わりではなくて、この後、自分たちの生活、どんな学習問題、これからどう解決していったらいいかということを考えられるように構成されているので、そういうふうに扱いやすいと思った。東京書籍は、最後、「生かす」というページが単元によってはあるが、先程の教育出版と同じように、自分たちの生活として何ができるかとかが書かれていた。先程例に挙げた火災の学習の後に、火事を防ぐために自分たちがどんなことができるかということ、この教科書ではアンケートを取るという例があるが、自分のクラスではどんなことができるかということにつなげていけると思う。

○議長 ・ほかに何か質問はあるか。

《なし》

○議長 ・調査員は、後ほど、地図で改めてお呼びするが、ここで一度、退室をお願いします。

(調査員退室)

#### 【検討】

○議長 ・それでは、感想や御意見をいただきながら検討を進める。いかがだったか。

○委員 ・どの発行者も、児童が教科書を使いながら学習の問題を追究、解決する活動という、その充実を図るために様々工夫をしていると感じた。教育出版については、いつでも、この時間の問い、最後に「次につなげよう」、まためくると、この時間の問い、「次につなげよう」という形で、単元を通して一貫して追究できるような流れになっていると感じた。それから、東京書籍については、「学びのポイント」というのがあって、例えば、暖かい気候を生かす取組にはどのようなものがあるか話し合おうというような、学びのポイント、この時間でこんなことをやるよということが明記されていて、学習活動が分かりやすく示されていて、主体的に学んだり深く考えたりする学びにつながる学習活動を進めることができると感じた。それから、日本文教出版については、やはり同じように、見開きのページで、「問題発見」、「追究」、そして最後、「解決」という流れになっていて、1時間ごとに問題解決的な学習が展開できるようになっていると感じた。

- 委員 ・調査員からもあったように、教育出版では、低学年の生活科から初めての社会ということで、3年生は初めて社会科を学習するに当たって、神奈川県が特化されている内容が多く単元に掲載されていて、身近な社会としてつなげられて、イメージをしながら学習するということは生活に生かされていくのかと思って、良いと思った。
- 委員 ・どの発行者も、巻末に中学校に向けてのページがあったと思っている。日本文教出版とか東京書籍は見開きでそういうページがあったと思う。写真とか説明が書いてあって、中学校でどんな学習をするのかというのがあったので、中学校に向けて、スムーズに期待が膨らむような内容になっていると思う。教育出版も同じように、中学校でどのような学習をするのかという説明があったけれども、そこに、見たところ、具体的に投票する写真が載っていて、18歳からの選挙権というところで、18歳から政治に参加するんだということを見据えているような、そういう作りになっていると思った。
- 委員 ・基礎的な知識や技能などを習得するための工夫という点でいうと、東京書籍では、随所に「学び方コーナー」が設けられていて、学習技能を系統的に取得できると感じた。教育出版では、先程調査員の報告にもあったけれども、例えば、小学校5年生社会の「これからの食料生産」というところでは、キーワードを地産地消ということで挙げていて、解説も加えながら掲載されており、学習の習得や定着につながると考えた。また、日本文教出版では、「学び方・調べ方コーナー」があって、資料や調査活動を通じて情報を適切に調べたり、まとめたりする機能を身に付けられるように工夫されていると感じた。
- 委員 ・自分は巻頭の部分で各者を見たが、まず、教育出版では、前の学年の振り返り、そして、社会科で使う見方・考え方というのが必ず巻頭にあった。それで、こういうふうに学習を振り返り、社会の学び方を理解しやすい内容になっていると感じた。また、社会の学習の進め方がきちんと示されているので、各単元がそれに伴って構成されていた。また、日本文教出版では、巻頭に社会科の学習の進め方という、各学年それぞれ、この学年ではこういうふうに進めていくんだということが示されていた。「大切」というので、これを大切にしていきたいものが明確に表れていると思った。そしてまた、それぞれの目次ごとに学習のねらいが示されているところがあって、良いと思った。
- 委員 ・東京書籍に関しては、冊数が、5・6年生が2巻、上下巻に分かれているので、社会は意外と、カラー刷りなのですごく重いというのが現状あるので、そういう運搬というか通学の部分に関して、やはり今日も猛暑なので、こういう状態においても考えられるところでは、軽くてもいい。先程、調査員からもあったように、神奈川のことから、1・2年生というのは「生活」という授業から3年生から「社会」という授業に変わるというカテゴリの中で、非常に興味を持てる神奈川のところという部分もある
- 委員 ・教育出版は、神奈川県のことを大きく取り上げている。子どもたち



がまず、自分たちが住んでいる近所のことからいろいろとやっていったほうが興味が出てくるし、日本の人口の前に、伊勢原の人口が何人なんだとか、そういうことも知らない子が結構意外と多いので、私たちは伊勢原に住んでいるから、大山の歴史をちょっと勉強したりとか、そこから広げていったほうが面白いと思ったので、教育出版は面白いと感じた。最近の子どもたち、教科書が重たくて、鞆とかもパンパンで行っているの、かわいそうだというのもあるので、その辺も改善できる余地がありそうだと感じた。

○議長 ・ほかに何か御感想、御意見等はよろしいか。

《なし》

○議長 ・活発な御意見、感想をいただき感謝する。各者それぞれに良さ、特徴があったことを引き続き報告させていただく。

(意義なし)

○議長 ・これで社会の検討を終了する。

## 地 図

(調査員入室)

○議長 ・地図については、2者から発行されている。引き続き、報告をお願いします。

○調査員 ・報告(「小学校用教科用図書研究結果(令和6・7・8・9年度用) 平塚地区、秦野地区、伊勢原地区、大磯地区、二宮地区版」のとおり)

### 【質疑】

○委員 ・どちらも特徴的な部分がたくさんあったが、実際に指導するという立場になったときに、扱いやすさや、子どもたち目線での色使い、そういったところで特に印象に残っている各者の工夫点や先生の思いがあれば教えていただきたい。

○調査員 ・個人的な意見も入ってしまうかもしれないが、今説明したとおりで、例えば、どこどこを調べましょうとなったとき、かなり索引を使う。そのときには帝国書院の索引は見やすいと思う。色分けがされていまして。ただ、その一方で、テーマを扱った主題図、気候の地図であったりとか、災害の地図であったり、歴史の地図であったり、伝統文化の地図だったりというのに充実しているのは東京書籍だと思う。ただ、そういった内容が帝国書院にないわけではなくて、帝国書院の地図の中に、音楽に関わるものであったりとか、国語に関わるものであったりとかということも載っていたりするので、使い方だと思う。

○委員 ・資料を活用するというのも大切な議論だと思うが、小学校だと地図帳を授業の中でどのように活用されているか教えていただきたい。

○調査員 ・3年生は、まず、地図帳の使い方と都道府県の場所というのを中心にやっているの、資料というのは、例えば、出てきた地名を調べるぐらいになると思う。特に4年生、5年生で産業の学習とかになっていくと、自分たちの地域とのつながりであったりとか、位置関係であったりとか、流通の

流れなんかを見るために、大きな地図を使ったりもする。6年生になると歴史がメインになってくるので、歴史上に出てきた地名なんかを調べることが多くなるが、そういった形で、要所要所で常に使っている状態ではある。

○議 長・ほかに何か御質問はあるか。

《なし》

(調査員退室)

#### 【検討】

○議 長 ・それでは、引き続き、感想や御意見をいただきながら検討を進める。

○委 員 ・まず、両者ともA4判という形で、あと、時々広げるような折込ページがあって、位置とか広がりというのが捉えやすくなっていると思った。それから、先程説明もあったが、自然災害だとか、産業とか、貿易とか、歴史に関する資料とか、統計がたくさん取り上げられていると感じた。地図の見やすさについて言うと、帝国書院は、ぱっと見たときに色合いが薄いと思った。ただ、標高とかの高さの違い、この辺の福島県辺りの山脈だとか、そういうところは分かりやすい割と鮮明な色分けになっていると思った。日本の地形の特徴というのがつかみやすくなっていると思った。それから、先程説明があったけれども、3年生とかが初めて地図に触れたときに、こういう読み取りやすい精選されている地図があるということと、それ以降の4年生以上でも使うような詳しい地図というのがあって、発達段階に配慮して使い分けできると思った。東京書籍は陰影が少なくなっているということで、高さみたいのが分かりにくくなっていると思うが、ただ、文字は逆に見やすくなっているという印象を受けた。あと、主題図、先程も説明があったが、ここについてはページ単位でまとめられていて、その辺は工夫したレイアウトになっていると感じた。

○委 員 ・両者とも、地図記号や縮尺について、地図帳の使い方のポイントが示されていて見やすいというところもあるし、また、体験活動の充実について、地球儀を使って書いてあったり、方位や距離、大きさ、面積なども、形を調べる学習活動が設定されたりして、工夫されて見やすいところが、初めて使う3年生にとっては取りかかりやすいと思った。帝国書院では、方位に関しては地図帳では大切になってくるので、体を使って方位を表す学習、「方位で正しい方向を表わそう」が設定されていたり、また、平面になったときの子どもたちのイメージをするために、東京書籍では、地図を作る学習、「まちを地図にしよう」という単元が設定されていて、こういう面白い学習を取り入れて見通しを立てていくところがよかったと思った。

○委 員 ・私は主体的・対話的な学びとか問題解決、そして問題発見という力の観点から。先程調査員からもお話があったが、まず、帝国書院は、地図帳の導入として、3年生向けになるが、そういうところについては必ず「トライ」というものが載っている。そしてさらに、今度は「地図マスターへの道」というのがこういうパッケージにちりばめられているので、それぞれの学年に応じた達成感というか、問題を解決する力とかを刺激するものになる

と思った。東京書籍では、「ホップ・ステップ・マップでジャンプ」というところが必ずある。これはクイズ形式や、地図を見ながら、作業をしながら、そういうところで楽しみながら学べる工夫があると思った。

○委員 ・どちらの地図帳も、索引の項目数とか資料が豊富で、主体的な学習の助けになるような構成になっていると思う。特徴が違うので、それをどう生かすかということが重要な部分だと思う。その中で、帝国書院では、SDGsのページが取り上げられている。実はこのSDGsが、よく学校研究で取り上げられて、非常に深めていく場合もあれば、SDGsに偏り過ぎてしまう部分もある。学習指導要領につながる部分があるので、非常に良いものだが、あまりそれが目的になってもどうかと思う。ただ、地図帳ではあるので、地球全体の課題として、広くSDGsを捉えて、自分ごととして捉えるというような意味合いでは、非常にまとまって良い。学校として扱う時代にはなっているので、触れることは重要だと思うし、全体像をつかむという意味では、こういうのは非常に良い示し方だと思う。

○議長 ・ほかに御意見、御感想などいかがか。

《なし》

○議長 ・活発な御意見をいただき感謝する。各者それぞれに良さや特徴があったことを報告する。

(異議なし)

○議長 ・これで、地図の検討を終了する。

## 算 数

(調査員入室)

○議長 ・算数の教科書は6者から発行されている。それでは、報告をお願いします。

○調査員 ・報告(「小学校用教科用図書研究結果(令和6・7・8・9年度用)平塚地区、秦野地区、伊勢原地区、大磯地区、二宮地区版」のとおり)

### 【質疑】

○議長 ・それでは、ただいまの調査員の説明について、何か御質問あるか。

○委員 ・算数の指導を行う中で、教科書の他にもし問題集などを使って学習するということがあったら、教科書と問題集というのはどのように使い分けられているのか、教えていただきたい。

○調査員 ・練習用に別冊で計算スキル等を用意することがあるかと思うが、学習の求め方が類似しているようなものが、あと、流れの中で、問題が教科書と流れに沿っているようなものを選んでいっていると思う。あとは、マスがあったほうが書きやすいとか、マスがないと書きにくいという子どもがいるときには、マスの大きさなども意識して計算スキルを選ぶと思う。

○委員 ・今、学校にはタブレットとかが入ってきていて、児童にとって分かりやすく理解が深まり、個別の学びにもICTの活用というのは役に立つと思われるが、それぞれの教科書で構成上の工夫や配慮というのは、そういう

教科書の活用ができるような部分はいかがか。

- 調査員 ・各者とも、教科書の一番最初のところには2次元コードの記載があって、また、その2次元コードの中でも、これは動画だよとか、これは振り返りだよとか、これは操作して、図を動かして多面的に立体を見ていくとか、そういうような操作ができるところは各者確認された。問題文の問題が分かりやすく、最初、教科書で問題が提示されるが、それを分かりやすく図や絵で描かれているような、最初の導入で引きつけやすくなるような動画が2次元コードで用意されているのも特徴だったと思う。各者ともあったと思う。
- 議長 ・ほかに何か御質問はあるか。それでは、ここで調査員は退室をお願いします。

(調査員退室)

### 【検討】

- 議長 ・続いて、感想や御意見をいただきながら検討を進めていく。
- 委員 ・どの教科書も、ノートの手書きというものがどれも示されていると思った。東京書籍ではノートの書き方の手順が示されていて、あと、自分なりに工夫するポイントというのが分かりやすくなっていると感じた。それから、学校図書は、「ノート名人になるポイント」がたくさん提示されていて、学び方が分かりやすく示されていると感じた。教育出版では、「友だちのノートの書き方のいいところを見つけよう」というコーナーがあって、例示されたノートからいいところを見つけようというふうに投げかけている、そんな工夫があると感じた。
- 委員 ・どの発行者も、段階的に、生徒の発達段階に応じて、円滑な接続が行われるように考えられていると思った。調査員からの説明にもあったけれども、1年生の最初の部分を別冊にしているのが東京書籍、大日本図書、啓林館、日本文教出版。書き込みやすく使えるようにして、幼児教育との接続についても工夫がされていると感じた。また、学校図書の6年生別冊が、「中学へのかけ橋」となっていて、中学校の内容に関心が持てるような構成になっていた。どの発行者も巻末にそれに近い形のものはあるけれども、別冊にすることで、少し気持ちを変えて6年間のまとめだとか、中学校へ進む気持ちづくりとか、気持ちの面で変化がつけられると感じた。
- 委員 ・算数の場合、図や表とか具体的なものを使って学習をするということがあると思うので、そういう題材の工夫を見た。教育出版は、「学びを深めてなるほどを見つけよう」という活動があって、その中で図や式を用いて、児童同士が考えたり、話し合ったりしてそれで解決して、さらに新たな問いを見つける活動になっている。啓林館は、各単元に「準備」「確かめよう」「振り返ろう」「やってみよう」というのが設定されていて、絵や図とか式が複数掲載されていて、課題解決のための考え方も掲載されているところが良い。あと、大日本図書。「じっくり深く学び合おう」では、具体物、図、式、言葉を用いて自分の考えを表現すると、自分はどのように考えたかを図とかで表現する、そういう活動がある。また、問題に対する幾つかの解決方法が

あるので、比べて見て検討して、話し合いで工夫されていると思った。

○委員 ・目的に応じてデータを収集したり分類整理したり、結果を適切に表現する題材の工夫という点で、まず、教育出版では、学年末に、表やグラフを用いて「算数を使って考えよう」という題材があって、例えば、4年生の下では、リユース、リデュース、リサイクル、3Rについて自分でアンケートをとっていくというような、表やグラフを用いて、学習したことを総合的に活用しながら問題発見や解決する力を身に付けられる「算数を使って考えよう」という題材があるというところに特徴があると思った。同じように、学校図書では、これは「算数を使って」というところになるが、これまで学んできた内容をSDGsをベースとした様々な課題に取り組める学習が設定されていた。例えば、小学校4年生では、バスのバリアフリーについて考えようということで、ノンステップバスの移り変わりをグラフで表したり、読み取るような活動が入っていた。特徴的だと思った。それから、啓林館では、学年末に、これまで学んできた統計的な問題解決の方法を生かして、例えば、4年生では、ごみを出し過ぎていないかというようなSDGsをベースとしたような課題が載っているところが印象的だと思った。そして、日本文教出版では、身に付けた力を用いて、収集されたデータを活用して取り組む探究的な課題というところで、SDGsや防災等にも関連しているが、特に他教科とのつながりで、例えば、4年生の下では、図工に役立つ飛び出すカードの展開図の作り方が掲載されていて、他教科とのつながりが設定されているところが特徴的だと思った。

○委員 ・調査員の報告にもあったように、基礎・基本の定着を図る上で、練習問題がある程度設定されることが大事だと感じた。その中で、日本文教出版では、単元前には「次の学習のために」というふうなところのページが設定されていたり、単元末には「確かめよう」とか「次の学習のために」というような準備があったり、あと、「マイトライ」、各問題の右側にフィードバックのページが記されたりしているなど、児童が自分で学習を振り返りながら知識・技能の定着を図ることができるように工夫されていて、見やすいと感じた。また、教育出版では、2年生以上の単元末には、算数を見つけたり算数を使って日常の問題を解決する活動に広げたりするというのは良いと感じた。学年末、最後のページには、総合的に活用できる問題もあり、算数を使って考えようがそれぞれ設けてある中で、「わかる・できる」から、児童自身が使える力となるように工夫されている手立てがあるのが印象的で、とてもいいと感じた。

○委員 ・数学的活動の充実という観点からの工夫としては、調査結果にも書いてあるが、教育出版は、問い続け、よりよいものを求めて改善し続ける子どもの育成を目指して、児童の問いの連続で学習が進められるように、「はてな」「なるほど」「だったら」と、問題、発見、解決の流れで構成されているのが良いと感じた。東京書籍は、考えを表現してまとめる展開というのが設定されていて、吹き出しによって数学的活動が可視化されている。あと、ま

とめの後に、さらに深めるための発問とか、発展的学習に向かわせるページというのが掲載されていて、数学的な見方や考え方の価値を再確認できるようになっていると感じた。大日本図書については、教科書の巻頭に「算数の大切な考え方」のコーナーがあって、問題解決に使える見方・考え方を「ひらめきアイテム」としてまとめられているページが設定されていて、しかも、単元末に「見方・考え方を確かめよう」という問題があって、そこに関連しているというところが良いと思った。

○議 長 ・情報活用能力の育成ということで、プログラミング的思考を身に付けることが重要というふうに言われているが、教科書を御覧になって、何か工夫されている部分など気がつかれたようなところはあったか。

○委 員 ・プログラミング教育という面から見ると、どの発行者もそういう内容が含まれていた。その中で、大日本図書や学校図書、啓林館、日本文教出版は、どの学年にもたしかあったとっていて、発達の段階に応じて、課題設定がされているのが良いと思った。

○議 長 ・ほかに御意見、御感想などいかがか。

○委 員 ・すごく思考的な部分で、教育出版は、「はてな」「なるほど」「だったら」というこの手法によって考えさせるところは、どの教科書もあると思いつながら、この手法の仕方が、問いかけ方が違うだけで、皆さんすごいと思った。

○委 員 ・6者ともいろいろと研究されている。結局、書いてあることは全部一緒で、あとは、特徴は、子どもたちが分かりやすくするためにはどうするかというのが研究されていると感じた。あと、「考え方モンスター」だとか「はてな」とかいう表現、考えることに焦点を置いたところも幾つかあったので、そういうのは良いと感じた。

○議 長 ・ほかに何か御意見や御感想よろしいか。

《なし》

○議 長 ・活発な御意見をいただき感謝する。各者それぞれに特徴や良さがあったことを報告させていただく。

(異議なし)

○議 長 ・これで算数の検討を終了する。

## 理 科

(調査員入室)

○議 長 ・理科の教科書は6者から出されている。信州教育出版社の調査研究結果は、教科書見本が届いていないため、県の調査結果のみとなる。それでは、報告をお願いする。

○調査員 ・報告(「小学校用教科用図書研究結果(令和6・7・8・9年度用)平塚地区、秦野地区、伊勢原地区、大磯地区、二宮地区版」のとおり)

### 【質疑】

○委 員 ・学習した内容をいかに実生活に結びつけていくかというのが、今、学

習指導要領で大切にされていると思うが、特に、理科の中で、実生活に結びつける、生きて働く知識・技能とするために、何か日常生活と関わりのある工夫とかをもし授業でされていたら、教えていただければと思う。

○調査員 ・まず、この項目の中で言うと、問題というところが子どもたちの実生活に関わってくるようなところからスタートしているので、学習内容は、学習に入ってしまうと理科的なことになってしまうが、スタートのところという意味では、子どもたちの生活とつながっているような、一応そういうようなスタートになっている。

○委員 ・観察とか実験をする上で、問題解決の力を養うように各者、工夫や配慮をされているということは報告をいただいたが、多くは言葉で表していることが多く、児童、子どもたちからすると文字がいっぱいな感じのところもあると思う。そんなところで、どんな表し方というか、子どもたちが受け入れやすいという工夫や特徴、配慮という点では、特に印象に残っているものとかがあったら、教えていただきたい。

○調査員 ・どの発行者も、今、伊勢原で使っているものよりも写真を大きく掲載されていることがある。あと、大きい教科書のほうが、A判のもののほうが詰めていないというんですかね。余白が多いので、文字だけという印象は少なくなっていると思う。写真の量は、どの教科書も非常に増やしているのではないかと。特にA判のほうは大きいということの利点を生かして、写真が大きくなっているのが、この印象はちょっと違うという子どももいるんじゃないかと思う。

○議長 ・ほかに御質問はあるか。

《なし》

(調査員退室)

#### 【検討】

○議長 ・それでは、検討に入る。御意見や御感想をお願いします。

○委員 ・理科の学習を進めるに当たり、教科書を使って理科室の使い方を説明するところがあるが、大日本図書とか教育出版では、このようにあったり、理科の安全の手引きが教育出版など、大日本図書でもあったり、後ろのページに、巻末にあったりするということが、理科室全体のイラストとともに、実験後のガラス器具の使い方等が写真で掲載されているのは、児童が安全に行う中で大切なことだと思った。また、どの教科書も、観察や実験に使う器具や薬品の使い方について、児童の発達段階に応じた記載があることがとても分かりやすく、子どもたちも受け入れやすいと思った。その中で、学校図書では一つ一つの手順にチェックが書いてあったり、啓林館では、巻末にまとめてではなくて、実験ごとに器具の操作方法が記載され、発達段階や既習学習にも応じてというところで分かりやすい表記があった。

○委員 ・どの教科書も、中学校への円滑な接続や9年間の学びのつながりの工夫というところがあって、必ず中学校の発展的な内容の紹介をしていると思った。そんな中で、東京書籍は、巻末に「1年間を振り返ろう」というペ

ージがある。この特徴は、理科の学習内容を大きく4例題に分けていて、物の働き、物の性質、生命、地球という4つの分野に分けている。例えば、3年生でやったのは、そのカテゴリーに分けられて復習されているが、それが全学年にわたって同じ編修でされているので、例えば、3年生の「物の働き」と4年生の「物の働き」だけをずっと見ていくと、大きな分野で全体的な内容の復習ができる。理科の教科書は1個1個で見ていくとばらばらのように見えるけれども、つながりが非常に強い教科だから、「物の働き」という分野で全部見直すことによって、個別に学習していた内容が、3年生から6年までの4年間、トータルして復習できるという編修がされていると思った。必ず、3年生だと、4年生で何を学ぶという予告がされていて、当然、4年生で同じところを見れば、5年でどうなるというのが書かれている。そうすると、最終的に、6年のところにも中学校へのつながりが出てくるので、個別の分野で学習するのではなく、系統的に生命なら生命で全部一貫して見直しができるような編修がされているということが特徴だと思った。

○委員 ・先程算数でも出たプログラミング的な思考の育成についてなのだが、東京書籍は「理科とプログラミング」、啓林館は「やってみようプログラミング」という形で、理科の学習とプログラミングを関連させた内容というのが全学年載っていると思った。

○議長 ・ほかにいかがか。それでは、私から、最後に皆様に伺いたい。令和4年度の全国学力・学習調査の理科のところでは、本市の課題となっていた、児童同士の話し合いの中で、ほかの児童の意見との違いや共通点を捉えて記述をするということに関連した、こうした工夫という点ではいかがだったか。

○委員 ・今、議長がおっしゃられた、児童同士の話し合いというのは理科の中でも必要なところだと思うけれども、そういう意味で言うと、啓林館とか教育出版については、自然の事物や現象から問題を見つける場面とか、観察や実験の結果から考える場面等において、児童同士の会話や吹き出し、ほかの教科書にも吹き出しはあるけれども、今言った啓林館と教育出版の2者については、その吹き出しがさらに、マーカーでこういうふうにさらに比べる部分だとかそういうことを強調してあるので、より子どもたちがそういう見方が絞れるというか、考え方、話し合いの中の鍵になる部分が出てきていると思う。

○委員 ・児童同士の話し合いで、友達の考えや意見を聞いて、自分の考え方を伝えるような活動というのは、どの発行者にも掲載があった。印象的だったのは、啓林館のノートのとめ方のところで、そこにノートに友達の考えと自分の考えを書いて比べるという工夫があって、具体的で分かりやすいと思った。

○議長 ・ほかに御意見や感想などはあるか。

《なし》

○議長 ・活発な御意見をいただき感謝する。御検討いただいたとおり、各者それぞれに特徴や良さがあつたことを報告させていただく。



(異議なし)

○議長 ・これで理科の検討を終了する。

## 生活

(調査員入室)

○議長 ・生活科は7者から出されている。信州教育出版社の調査研究結果は、教科書見本が届いていないため、県の調査研究結果のみとなる。それでは、報告をお願いします。

○調査員 ・報告(「小学校用教科用図書研究結果(令和6・7・8・9年度用)平塚地区、秦野地区、伊勢原地区、大磯地区、二宮地区版」のとおり)

### 【質疑】

○議長 ・それでは、ただいまの調査員の報告、説明に対して、何か御質問はあるか。

○委員 ・教科書の内容、生活に密接するもの、様々な題材があるかと思うが、実際に小学校生活科ではどのような具体的に活動をされているか。教科書に沿ってやっていると、何か実生活の中でテーマを見つけて、教科書は活用しているのか、教えていただけたらと思う。

○調査員 ・そういう、実生活と結びつけてという部分は大きくはあって、生活の中で出てきたものを題材に扱うことが多いかと思うんですが、要所要所で、教科書を開いて活用する場面などはある。特に、こういうアサガオの成長とか見通しを持たせるところでは、よく活用される場面だと思う。

○委員 ・今、教科書の授業の中での活用についてお話も伺ったが、もし特に有効な、こういうときにより数多く使っていると、何か題材とか単元によって教科書の使い方に違いがあるかどうかとか、もし分かったら教えていただきたい。

○調査員 ・どの発行者も使いやすいようにできていると思った。あわせて、2次元コードはどの発行者にも載っているので、今、1年生も持ち帰って使い方を学び出したりしている時期なので、例えば、2学期からとか、そういうものを活用して学習に取り組めるような仕組みになっているとは思う。

○議長 ・ほかに何か御質問はあるか。

《なし》

(調査員退室)

### 【検討】

○議長 ・それでは、検討に入る。御意見や感想をお願いします。

○委員 ・児童の興味・関心を高めるために、どの発行者も工夫がなされていると思った。啓林館に関しては、このように単元導入時に「わくわくタイム」が設定されていて、学習の意欲が高められるというふうなことの手立てがあるので、分かりやすいと思った。また、同じように、教育出版社では、「わくわくスイッチ」での学習への興味・関心が高まるようなことがあったので、いろいろなところで子どもたちが主体的というか、意欲的に学べるよ

うな工夫がされていると思った。東京書籍では、掲載されている活動に、はてなマークで課題が投げかけてあったり、児童の活動にそれで興味も持ちやすいと思うような工夫があったりした。学びを深める場面では、気づいてほしい視点や考えてほしい内容について、会話形式で書いてあるところもあり、そういう具体的などころがあると、子どもたちも見通しを立てやすく、イメージもしやすいので、児童が参考にしながら主体的に活動が進められると思った。

○委員 ・先程調査員の説明にもあったが、児童にとって分かりやすい構成上の工夫ということで、各者ともよくできていると感じた。特にその中でも教育出版については、必ず単元の最初に、気づく、考えるとかアイコンみたいなのが作ってあって、そこで、例えば、「気づく」であれば、生き物を探そう、どこにどんな生き物がいるということに気づくというふうに、アイコンとねらい、学習のめあてがはっきり分かりやすいようになっている工夫があった。そして、大日本図書でも同じような工夫があったが、大日本図書は、先程説明がありましたけれども、自分の考えを直接、何々してみたいとか、そういうところを必ず書き込むスペースがあったりとか、学習の終わりには、「気持ちマーク」と言って、自分の今の学習が終わった後の気持ちを絵で表す、ニコニコマークとか、学習の振り返りが1年生でもできる工夫が良いと思った。

○委員 ・学校図書の各単元の際に、「物知りノート」が設定されていて、昔遊びみたいなものの紹介があり、今後の活動の意欲が高まる内容が掲載されているのがあった。それと同じような形ではあるけれども、光村図書にも、「楽しい毎日につなげよう」で、こちらも、これまで学習してきたことを踏まえて、それを生かして楽しい毎日、これからの生活につなげようという紹介がなされていると感じた。

○委員 ・就学前の教育との接続という部分で、様々な配慮が見られた。まず、東京書籍では、一番最初のところが「どきどきわくわく1年生」というところになっているが、ここには、「保護者の皆様へ」ということで、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が、そこにはかなり詳しく書かれている。保護者にも分かりやすいという工夫がされていると思った。それから、啓林館では、初めに、入学前どんなことをしたかな、じゃあ、学校で楽しみにしていることは何かなというような形で、幼稚園・保育園のときの写真と、それから小学校に入ってからの写真が一緒に載っていることで、幼稚園・保育園のときの学びと小学校での学び、その接続が子どもにも意識できるようになっていると感じた。あと、接続とは違うが、光村は、上下巻全部にわたって、保護者の皆様へということが書かれている。それによって、保護者にとっても学習の意図だとかどんなことをやるかということが伝わりやすいのではないかと思った。

○委員 ・先程午前中からやっていたように、理科が3年生からだねとか、その部分がこの生活に入り込んでいるというところは、すごく分かりやすい説

明で良いと思っている。やはり生活科は1・2年生だけの授業になると思うので、家庭とのつながりだったりとか、本人に振り返りの意識づけだったりというところが明確になっていて、幼児教育から学校教育に変わるタイミングというところで、保護者の知りたいことが具現化している教科書もあるということを感じた。

○委員 ・7者の様々な視点から、子どもたちの生活のことについて書かれていると感じた。あとは、SDGsとかLGBTとかそういう単語がぼつぼつと出てくるけれども、1年生、2年生、3年生ぐらいの子たちもそういうことを意識した学習をしていかなければいけないと思うと、何か大変そうだと少し感じた。我々のときとは時代が全然違っているなと思ったけれども、その辺も、少しずつやっていかなければいけないと思った。

○議長 ・ほかに何か御意見、御感想などはあるか。

《なし》

○議長 ・活発な御意見をいただき感謝する。御検討いただいたとおり、各者それぞれに特徴や良さがあったことを報告させていただく。

(意義なし)

○議長 ・これで生活の検討を終了する。

## 音 楽

(調査員入室)

○議長 ・音楽の教科書は2者から発行されている。それでは、報告をお願いする。

○調査員 ・報告(「小学校用教科用図書研究結果(令和6・7・8・9年度用)平塚地区、秦野地区、伊勢原地区、大磯地区、二宮地区版」のとおり)

### 【質疑】

○委員 ・様々な工夫が報告されたと思うが、子どもたちには音楽という名前の音を楽しむ、楽しみながら教科を学んでほしいという思いがあるけれども、子どもたちがわくわくしながら体験的に学べる活動というのは、実際やっていて具体的にはどのような活動があるのか教えていただきたい。

○調査員 ・まず、どちらの教科書にも音楽づくりという活動があると思うけれども、友達と話し合いながら、リズムどうしようかな、一緒にリズム打ちするときにリズムを作ってつなげてみようとか、そういう活動の中で楽しみながら児童が活動を行っている様子は、私の授業の中では見られている。

○委員 ・教科書を見ると、非常に工夫されている。例えば、さっき紹介していただいた2年生のこのページなどは、子どもにとっては「太鼓の達人」みたいな映像になっていて、非常に児童の発達段階に応じた作りがされているように読み取っているが、これを実際に授業の場面では、どんなふうにかこういうものを使う、もしくは、説明にあった、こういう端のほうに書いてある様々な工夫を授業の中でどのように取り入れられているかというのを教えてもらいたいと思った。

○調査員 ・今、教育出版の教科書を使わせていただいているときに、例えば、先程申し上げた「うみ」のページ、写真になっているけれども、その写真を見ながら、じゃあ、目をつぶって、海の音が聞こえるかなとか、この写真を見ながら、海の様子からどんな歌かな、やわらかい歌かなとか想像するとか、そんなふうに使っている。

○議長 ・ほかに御質問はあるか。

《なし》

(調査員退室)

### 【検討】

○議長 ・それでは、感想や御意見をいただきながら検討を進める。

○委員 ・鍵盤ハーモニカやリコーダーの導入について教科書を見たところ、教育出版では、実際に近い大きさと実際に児童が楽器に手を添えるというような写真も掲載されていて、スモールステップで技能が習得できるように工夫されていて、ここでも練習できるので、児童にとっても取りかかりやすいと思った。また、教育芸術社では、タンギングや息遣いの使い方が詳しく記されていて分かりやすいと思ったので、どちらも良いと思った。

○委員 ・思考力・判断力・表現力の育成という観点で、まず、教育出版は、先程出た「学びナビ」という、多分コンパスだと思うんですけども、「学びナビ」というところで学習のプロセスというのが示されているので、気づいたことを話し合おうとかあるので、思いとか意図とかを生かした表現の工夫がしやすいし、子どもにとってもそれを考えやすいと思った。あと、やっぱりこのイラストとかが大きいと思って、絵というのも分かりやすいと思った。それから、教育芸術社は、幾つかのアイコンの中にストレートに考えるというアイコンがあって、そこも、気づいたことを生かして歌い方を工夫しましょうみたいな形で、思いとか考えを持って学習活動をしていこうということが示されている。それから、あと、ここにキャラクターがいて、この吹き出しの中にも考えるときのヒントが入っているので、これについては分かりやすいと思った。

○委員 ・伝統や文化に関するものの扱いということを見たときに、教育出版は、先程の調査員からの説明にもあったが、例えば、日本の歌、みんなの歌で、海の写真等、歌詞の内容を表した見開きの大きな写真があって、そういうもので先程の想像させるというお話があったけれども、日本の美しい自然とか四季の感じるとか、そういうものを大切に育むという意味では良いと思った。教育芸術社も、説明にあったように、鑑賞と結びつけてというところで、鑑賞した日本の伝統的な音楽と関連させて、発展的な学習としてチャレンジをするという掲載があったので、両者ともそういうものに親しめるような工夫がされていると思った。

○委員 ・他教科との関連等についてということだが、教育出版だと、1年生で早速、ショートタイム・ラーニングと言って、英語の曲が「きらきらぼし」、それから「おめでとうクリスマス」「かねがなる」というような曲、外

国の曲が外国語の歌詞で習うというか、学習するようなものが入り入れられたりしている。また、「たんの歌」とかそういうのを、外国語ではないけれど、理科とか算数とかに関連づけたものが載っているところもあった。そして、教育芸術社では、こちらも世界の遊び歌ということで、いろいろ曲を遊びを交えながらやっているところもあった。それから、教育芸術社は、図工の関連で、絵から生まれる音楽というような題材もあって、他教科の関連もあるということが分かった。

○議 長 ・ほかに何か御意見等はあるか。

《なし》

○議 長 ・活発な御意見をいただき感謝する。各者それぞれに特徴や良さがあったことを報告させていただく。

(異議なし)

○議 長 ・これで音楽の検討を終了する。

## 図画工作

(調査員入室)

○議 長 ・図画工作は2者から発行されている。それでは、報告をお願いする。

○調査員 ・報告(「小学校用教科用図書研究結果(令和6・7・8・9年度用) 平塚地区、秦野地区、伊勢原地区、大磯地区、二宮地区版」のとおり)

### 【質疑】

○委 員 ・小学校の図画工作の授業の中で、教科書はどのように活用されているか教えていただきたい。

○調査員 ・私の見える範囲での話になるが、一番多い使い方としては、用具の使い方とかで、こういうふうにつけて使おうというときに使うのが多いと思う。あとは、子どもたちの発想を促すために、例えば、発想で行き詰まってしまった子がいたときに、こういうような発想方法もあるんだねという作品例などを通して案を得るとか、そういうときに使ったりとか、あとは、クラスの子どもたちの作品以外に、こういう作品もあると鑑賞も視点を入れるときに使ったりとかする。

○委 員 ・子どもたちが主体的に活動に取り組むための、そういう支援をするような工夫というのが教科書の中に何かあったか。

○調査員 ・両者の教科書を拝見して、両者とも、題材自体、題材そのものがすごく子どもたちにとってやってみたいなという題材になっている。調査員で見比べてみても、どちらもすごくわくわくする題材になっていると思った。題材面一つ取っても、やってみたいな、「パッ」とか「チョキン」とかそういう言葉を使って表現しているので、そういうところが子どもたちがやってみたいなという思いを促すんじゃないかと思った。あとは、教科書が子どもたちの作品例や実際にやっている様子が掲載されているので、こういうふうにとやると良さそうだとか楽しそうだとか、子どもたちのそういうやってみたいという意欲を高めるためにも教科書は使えると思っている。

○議長 ・ほかに御質問はあるか。

《なし》

(調査員退室)

【検討】

○議長 ・それでは、これから検討に入る。御意見や御感想をお願いしたい。

○委員 ・報告にもあったように、授業を進める際に、教科書を使いながら新しい材料や用具の使い方や手順を説明することがあると思う。例えば、日本文教出版では、木の加工についてという、このように書いてあって、塗装するなども書いてある中で、具体的な作業工程が書いてあって、準備するまで、作り方のポイントが注意事項などと併せて掲載されていて、子どもたちの意欲にもつながるのかと思って拝見させていただいた。

○委員 ・両者とも本当にいろいろ工夫しているなど感じていて、まず、図工ではすごく学習のめあてというのが大事になってくると思っているけれども、そんな中で、さっき報告もあったが、開隆堂は、3つキャラクターが出てきて、全編にわたって学習のめあてというのが特に出される。それから、特に大事にしたいことについては、またその中のキャラクターの一人が出てきて、吹き出しで活動とか気づきが出てくるようなヒントが示されていると感じた。それから、この日本文教出版は、同じようにここに3種類のアイコンで、毎回毎回、学習のめあてというのが示されていて良いと思った。それから、あと、思考力・判断力・表現力の育成という点では、開隆堂は、「ひらめきショートチャレンジ」があり、例えば、いろいろな材料で木を作ってみよう、ビーズとか輪ゴムとか糸とかクリップとか、いろいろな木を表していて、ほかにはどんなのが考えられるかなみたいな形で子どもが思考していくというような、身近な材料を使ってでき、考える力を育成していくものが入っていて、良いと思う。あと、日本文教出版では、まず最初に「図工体操」というのが掲載してある。心がすっきりして気持ちが落ち着く体操だとか、目がぱっちりしていろいろな形や色が見えるようになる体操なんていうのが掲載してあって、そこでもやっぱり思考とか判断とか表現というのを大事にしている。あと、考えたり工夫したりするヒントが電球印、ピカンという感じで出ているというのも分かりやすく良いと思った。

○委員 ・体験活動の充実ということで、ただ机に座って絵を描いていくだけじゃなくて、今、すごく学校とか周りの自然なんか飛び出していきようなものが多いと思う。例えば、開隆堂では、そういう活動を行う際に、先程お話があったけれども、吹き出しなんかを使って学習のめあてなどもより分かりやすく示しているところがある。そして、日本文教出版では、身の回りの道具とかそういうものについては、大きく拡大して分かりやすく冊子に載せることによって、子どもたちが興味や関心を持って取り組むことができる。

○議長 ・ほかに御意見等はあるか。

《なし》

○議長 ・活発な御意見をいただき感謝する。御検討いただいたとおり、各者

それぞれに特徴や良さがあつたことを報告させていただく。

(異議なし)

○議 長 ・これで図画工作の検討を終了する。

## 家 庭

(調査員入室)

○議 長 ・家庭は2者から発行されている。それでは、報告をお願いします。

○調査員 ・報告(「小学校用教科用図書研究結果(令和6・7・8・9年度用)平塚地区、秦野地区、伊勢原地区、大磯地区、二宮地区版」のとおり)

### 【質疑】

○委 員 ・家庭科では、製作だとか調理実習だとか、そういった活動が中心に学習を進めていかれることが多いと思うが、教科書にはいろいろな題材が入っていると思う。教科書の活用の仕方だとか、授業の中での生かし方みたいなことがもし御説明していただければありがたい。

○調査員 ・教科書の中にはいろいろなパターンの製作や調理については紹介されているが、それぞれのところで、今回はゆでる学習というふうにピンポイントに目標を定めたときに、担当としては、今回はこの食材でここまで、ここまでっておかしいけれども、みんなでまず一番に体験してほしい、経験してほしいというものから取り組むようにしている。さらに、チャレンジしたいというお子さんもいるので、それを次の家庭学習や長期休みのヒントとしてやってみてくださいというチャレンジとして、紹介はしている。

○委 員 ・子どもたちの資質・能力の育成のためには、教科横断的な学習というのは欠かせないと思うけれども、教科書、2者の中で、ほかの教科と関連しているような内容があつたら、教えていただければと思う。

○調査員 ・家庭に密着しているものなので、家で経験をしてきたかというところ、経験の違いがどうしても出てしまう。ただ、理科であつたりとか、国語であつたりとか、社会であつたりというところで、同じ経験をしてきているお子さんたちがいて、持続可能な社会のところで、フードロスの話とか調理のところでは、調理の直前の野菜を育てる、何かを育てる経験とかというところを家庭科でもつなげてあげられるように意識をして取り組むようにしている。そういう中では、教科書の中に「リンク」という言葉で、中学校へのつながりだつたり他教科とも、もちろん道徳とのつながりも紹介されていたので、そういうところがヒントになっていくと思う。

○議 長 ・ほかに御質問はあるか。

〈なし〉

(調査員退室)

### 【検討】

○議 長 ・感想や御意見をいただきながら検討を進める。

○委 員 ・2者ともA判、同じサイズを採用しておりまして、写真や図が大きく見やすい。また、写真だけじゃなくて、工程のステップの図とかそういう

たものが掲載されていて、非常に工夫が感じられた。あとは、動画が閲覧できるような2次元コードも掲載されていて、調理実習など体験的な学習を進めるに当たって、非常に有効な取組だと感じた。それは児童も実際やってみると分かりやすいと思った。裁縫の單元では、両者とも複数の製作例が掲載されていて、児童が選べるように工夫がされている。そんな中で、開隆堂では、調査員の説明にもあったけれども、さらに、難易度が星印で示されているので、選ぶときに、自分の力量と言って良いかどうかあれなんですけれども、自分がこのぐらいかなと思う意味で選べるというのも参考になると思う。

○委員 ・両者とも学習の流れが最初に示されていて、児童にとって分かりやすい構成の工夫になっていた。また、単元の初めに、単元の学習のめあてや生活における見方・考え方が分かるようにというようなことがあったので、これから学習について主体的に取り組むような見通しを立てられるというところは、工夫があって見やすいと感じた。

○委員 ・まず、家庭科では、学習を通して自分自身の生活を見直して、それで、よりよい生活につなげるよう、実践につなげることが大切ではないかと考える。そういった意味では、この2者とも工夫がされているのかと思う。まず、東京書籍では、先程調査員の説明にもあったけれども、「生活の課題と実践」という生活を変えるチャンスとか、あと、夏休みの長期休業中のときに、「夏休みのわくわくチャレンジ」、そういうところの項目を特出しで行える。あと、開隆堂では、同じように「生活の課題と実践」というコーナーを設けて、投げかけ、そして、実践例なども挙げることによって、生活への関連と実践意欲を高める工夫がなされていると思う。

○委員 ・どちらも、話し合いとか意見交流、それから、発表する学習活動が設定されていると思った。例えば、東京書籍は、「夏を涼しく」だとか「物を生かして」という単元のところで、それから、開隆堂は、整理整頓とか衣服の手入れというところで、例えば、問題点として、整頓しても何かの中がすぐちらかってしまう、じゃあ、それをどうやって解決していくかというのを、教科書の中で場面設定をして、話し合っ発表する活動が設定されていて、学習指導要領の内容を踏まえた内容構成になっていると感じた。

○委員 ・家庭科なので、生活に一番近いものだったり、家庭で実践できるようなものだったり、ほかの教科なんかにもつながる教科と感じている。ここに書いてあるように、コラムの「プロに聞く」とか、職業観を養うとか、そういう記載があるようなので、小さい頃から子どもたちにも関心を持たせたほうが、子どもたちの将来の夢とかにも少しずつつながると思ったので、こういうのは良いと思った。

○委員 ・家庭科という科目の教科書をじっくり見ると、なかなかというか、昔はという話、我々が子どものときの家庭科というと、お裁縫をしたり料理したりというところのその入口の部分の教育だったと思う。今は総合的な感じのところも踏まえながら、本当に生活、1・2年では生活という部分のカテゴリーの授業で、じゃあ、5・6年生になると家庭科という形のところで



総合的にやられるのかなど。これは本当に児童の生活というか、今後の、将来に向けての一つのかけ橋というか、今は、ずっと前段からのSDGsやLGBT等というのがある時代に来ているので、昔は、男の子は料理しないよなんていうことを我々世代は言ってしまったが、時代が変わっているので、将来こういうふうな方向性で育てほしいという夢を持ちながらの教科書になると再度認識をした。

○議 長 ・ほかに何か御意見等はあるか。

《なし》

○議 長 ・活発な御意見をいただき感謝する。御検討いただいたとおり、各者それぞれに特徴や良さがあったことを報告させていただく。

(異議なし)

○議 長 ・これで家庭の検討を終了する。

## 保 健

(調査員入室)

○議 長 ・保健は6者から発行されている。報告をお願いします。

○調査員 ・報告(「小学校用教科用図書研究結果(令和6・7・8・9年度用)平塚地区、秦野地区、伊勢原地区、大磯地区、二宮地区版」のとおり)

### 【質疑】

○委 員 ・まず、保健の教科書は授業の中でどのように活用されているかということと、できれば、各者いろいろ工夫点があったかと思うが、先生のほうで調査された中で特に印象的なもの、これまでの教科書と比べてでもいいと思うが、そういったものがあつたら、教えていただきたい。

○調査員 まず、授業の中で、保健は3・4年生からスタートするが、年間計画の中に保健の時間をきちんと取って、学習する量に関しては各校工夫してやっているところだと思う。保健の学習をするというときに、この教科書を用いて、ノートに書いて学習したり、ワークシートで学習をしたりということをするために保健の教科書を使っているところだと思う。また、印象的だったところは、同じように調査をしたグループの中でも、どの発行者もそれぞれ個性があるが、個人的な考えで言うと、折込で、先程紹介した学習内容を隠して子どもの思考をかき立てるというか、興味・関心を引くような工夫というものは、今まであまりほかの発行者で見ることがなかったので、非常に印象には残っている。

○委 員 ・各者において、児童が身近な健康や生活につながるような工夫がもしあれば、ぜひ教えていただきたい。

○調査員 ・各者ともに、単元の最初の1ページに個性がある印象がある。著名人を使うことで、あ、知っている人が何か学習に関連すること話しているとか、著名人だけではなく、その学習内容に即したインタビューが附属して載っていたりだとか、そういう子どもの興味・関心を引く、また、そういう部分で言うと、自分になるほどと思ったのは、保健は体育的な部分になると思

うが、著名人がスポーツ選手とかアスリートに限らず、クリエイターとか作曲家とか、そういう文化の部分でもたけている方が保健に対していろいろ、アドバイスであったり、ふだんの生活こういうふうに行っているよとかということを書いてくれていることは、満遍なく、運動が好きじゃない子どもどうしでもいるので、そういうことも学習に取り組みやすいような工夫になっていると思う。

○議長 ・ほかに御質問はあるか。

《なし》

(調査員退室)

### 【検討】

○議長 ・引き続き、感想や御意見をいただきながら検討を進める。

○委員 ・本当にどの発行者も多様な資料が載せられているなというのが印象的だった。

・東京書籍では、先程の調査員の報告にもあったけれども、児童が健康について自分ごととして考えることができるように、全ての章において、ステップ1からステップ4で構成されているところが特徴的だと感じた。

○委員 ・体の発育や発達について、発達には個人差があるということを健康管理することの大切さを感じることができるように保健ではしていきたい。大修館書店では、多彩な資料は見やすさがとてもあって、子どもたちが取りかかりやすい。そういうのは子どもたちの助けになりますし、一助になるのかなと思っていて、分かりやすいと見ていた。特に学研では、運動や食事、休養や睡眠というところにチェックリストが設けられていて、よりよい発育・発達のための工夫が自分ごとのようにできるように工夫されているところが良いなと思った。また、大日本図書では、心の健康や病気の予防のために、保健や運動と関連できるように見開きで見られるようなことがあって掲載されているのがすごく分かりやすく、保健と、保健体育とは言うけれども、そういうつながりを大事にしていくことは大事だと思った。

○委員 ・紙面の構成もいろいろ工夫があるなと思ったけれども、光文書院は、毎時間の終わりのところに「学んだこと生かそう」というコーナーがあって、学習したことを実社会とか実生活で活用できるような力を育むようなものが設定されていて、学んだことを生活に生かすように、そんな工夫がされていると感じた。

○委員 ・どの発行者も工夫がされていると思うが、文教社については、課題解決に向けて、キャラクターが吹き出しで話していて、それに加えて、本文中もキャラクターというか、対話形式で話が進んでいくので、児童にとっては同じ目線というか、分かりやすいという印象を持った。そして、光文書院については、先程調査員の説明にもあったが、必ず4コマ漫画というか、けがの防止だったら、けがに関することでエピソードを載せていって話を進めていくというようなことで、非常に児童にとって身近なエピソードを載せていることによって、非常に分かりやすい工夫がなされているという印象を持

った。

○委員 ・保健体育で扱う喫煙や飲酒の害、薬物乱用防止について、小学校の段階で理解を深めてもらいたいと思っている。各者、喫煙のきっかけについて、場面設定にいろいろ配慮があると感じる部分もあるが、挿絵の中には学生を想起させるものもあり、心配を感じた。授業で扱う上では、少し配慮してほしい。飲酒の例では、中学生の飲酒経験を示した表があるものもある。これは、試しにちょっとやってしまったということかと思うので、君はどう思うかというような、あくまで一人の生徒の問題として捉えるような示し方で良いと思う。

○議長 ・ほかに御意見等はあるか。

《なし》

○議長 ・活発な御意見をいただき、感謝する。御検討いただいたとおり、各者それぞれに特徴、良さがあつたことを報告させていただく。

(異議なし)

○議長 ・これで保健の検討を終了する。

## 英 語

(調査員入室)

○議長 ・英語は、6者から発行されている。報告をお願いします。

○調査員 ・報告(「小学校用教科用図書研究結果(令和6・7・8・9年度用)平塚地区、秦野地区、伊勢原地区、大磯地区、二宮地区版」のとおり)

### 【質疑】

○委員 ・やはり外国語活動では児童が楽しみながら活動することが大事だと思うけれども、先生が調査して、教科書には具体的にどんな学習内容があつたか、何か印象に残つたものがあれば、ぜひ教えていただきたい。

○調査員 ・どの教科書も、まず、やり取りをすごく重視していて、コミュニケーション活動を活発にしたりとか、英語を好きになるという目的を、内容を濃くしているなという印象があつた。あとは、ICTを実際に使ってみようとか、それから、先程SDGsの扱っている教科書がいくつかあつたりとか、いろいろな教科横断的な情報を入れたりとかするところで、児童が楽しめる工夫がたくさんあつた。あと、例えば、東京書籍でしたら、マップをどの教科書も日本、世界の子どもたちに伝えたいような写真があつたり、キャラクターがあつたり、そういう工夫がたくさん見られていると感じた。

○委員 ・高学年は外国語ということで、中学年で学習してきた音声中心のものに、さらに、書いたりとか読んだりという、そういう力もつけるということがあると思うけれども、その際に教科書をどんなふうに活用されるのか。

○調査員 ・書くに関しては、各者、まず、文字を扱うコーナーみたいなのが必ずあつて、音で聞いたり、話したり、あと、視覚情報、同じ音から始まるものとかを目で見て分かるようにしながら、そこから4線に書くというところに入っていくけれども、その中で書き方を、ここからこうやって書くんだよ

というふうにガイドラインが入れてあるものとか、最初の書き出しは薄く書いてあって、あと、はめられるようになっていたりとか、初めは、巻末についている単語カードをはめて、それを写せるようになど、いろいろな工夫があった。

○議長 ・ほかに御質問はあるか。

《なし》

(調査員退室)

### 【検討】

○議長 ・それでは、引き続き、御意見や感想をいただきながら検討を進める。

○委員 ・各者それぞれ、教科書の大きさが本当に違うと思った。教育出版、光村図書については、A B判というこういうサイズ。東京書籍、開隆堂、三省堂、啓林館はA判サイズということや、あるいは、別冊のディクショナリーとかピクチャーブック。そんなような別冊がついているものが、東京書籍、開隆堂。それから、光村図書は中に挟み込める形になっていて、三省堂は教科書よりも一回り小さいサイズ、A B判の語彙集がついていて、本当に教科書と別冊が大きさがまちまちという印象を持った。

○委員 ・東京書籍では、学習が、ステップの表記で区切りが、流れが分かるようになっていて、とても見やすいと思った。また、東京書籍と三省堂では、複数のレッスンで、ユニットで一つの目標設定となっていたのがとても見やすく、見通しが持ちやすいと思った。ほか4者では、一つのレッスンで、ユニット一つで目標設定となっているという工夫もあったので、それぞれいいところがあって、印象的だと思った。

○委員 ・文字を読むことの活動の中で、児童が読むことの意欲を持てるように、なじみやすい題材をそれぞれ各者とも取り上げられていると思った。まず、三省堂は、例えば、登場人物が文章を書き途中なので、その書き途中で発表原稿を完成させようという、そういうものをやっていたりとか、開隆堂や光村図書では、日常生活でよく使ったり目にしているものを題材に取り入れたりしている。そして、東京書籍や教育出版では、物語文ということで、特に教育出版なんかは、物語文ということで、小学生2年生の国語で「お手紙」という題材がある、全く同じ題材を英語で、英文があるので、それを物語に取り入れたりとかして、すごく取り組みやすい、子どもたちになじみやすいのを使っているので、意欲が湧くのではと思った。

○委員 ・各者、言語能力の育成についての工夫や配慮ということで、先程の報告にもあったが、やり取りを中心としたコミュニケーション活動が充実していると思った。特に自分の身近なところでの話が多く、誰もがやり取りしやすいという設定になっているところがいいと思った。また、東京書籍、開隆堂、三省堂、啓林館については、5・6年生共通して、まず音声を聞く、その後、繰り返しその題材を基に話し合うという場面が設定されており、5年生から6年生にかけて同じ取組になっているので、やりやすさがあるのと同時に、繰り返しやることによって言語活動に慣れ親しむことができると感

じた。

- 委員 ・小学生にとっては、書くことというのが非常に難しい部分だと思われるけれども、各者どれもいろいろ工夫がされていると思った。どこも、子どもが実際になぞったり写したりする実際に文字を記入する箇所については、4線のもとの線と第2線の間が少し広がっていて、書きやすくなっている工夫がされていると思った。あと、東京書籍については、いわゆるアルファベットの書き方が取り上げられていて、書き順とか留意点が記載があると思った。あと、啓林館や開隆堂については、例文を見ながら書き写す、そんな活動が設けられていた。
- 委員 ・どの発行者も、国際理解が深められるように様々な配慮がされていて、世界の文化に触れることができ、さらに、日本の文化についても触れられていると感じた。英語を学んで世界を知り、世界を知って、また日本の良さを改めて感じるということは、やっぱり英語を学ぶ大事な視点だと感じた。そんな中で、特に東京書籍では、世界の文化を知るという活動が毎回ユニットで紹介されていて、単元ユニットが終わるごとにそういうものに触れられるということで、光村図書でも、こちらは世界各国の同世代の人を登場させることで、習う子どもたち、ほかの国の同年代、同じなんだとか違うんだとかいうことを英語を通して知ることができるというのは、いろいろな意味で、語学だけじゃない意味でプラスになると感じた。
- 委員 ・どの発行者も学びが繋がっているというところを意識された作りになっていると思った。例えば、東京書籍や光村図書の中で、小学校での学んだことを振り返る場面が設定されていたりとか、開隆堂や三省堂は、小学校の復習事項のところかC a n－D o形式で確認するページがあって、そういうところで今まで学んだことを振り返ったりとか、あと、中学校にもつながるように工夫されていると思った。
- 議長 ・ほかに御質問等はあるか。  
《なし》
- 議長 ・活発な御意見をいただき、感謝する。御検討いただいたとおり、各者それぞれに特徴や良さがあつたことを報告させていただく。  
(異議なし)
- 議長 ・これで英語の検討を終了する。

## 道 徳

(調査員入室)

- 議長 ・道徳の教科書は6者から発行されている。報告をお願いする。
- 調査員 ・報告(「小学校用教科用図書研究結果(令和6・7・8・9年度用) 平塚地区、秦野地区、伊勢原地区、大磯地区、二宮地区版」のとおり)

### 【質疑】

- 委員 ・今現在使っている道徳の教科書、光文だと巻末のところに「学びの足あと」とか、各単元が終わったところに「考えよう」とか「まとめよう」

とか、道徳の学び方が書かれたページが入っている。今回の教科書にも、例えば、東京書籍だと、「考えるためのツール」のように、他者にも同じような学び方が書かれている部分があるが、実際、道徳の授業の中で、こういったものをどのように活用されているか教えていただきたい。

- 調査員 ・このような例えば思考ツールに関しては、先生方のねらいとしては、この1時間でこの道徳的価値を学ばせるというめあてをもとにやっているけれども、どうしても多様な意見を聞くと頭の中が混乱になり、なかなか整理されないということがある。こういった思考ツールを使うと、頭の中が整理され、より自分の考えが明確になったり、より道徳的価値に近づくような手段であるから、こういったものは子どもたちにも紹介をしながら、こういったツールを活用しながら道徳の授業というものを組み立てている。
- 委員 ・一般的に道徳の授業では、小学校では、例えば、教材を読むだけじゃなくて、どのような活動があるのか。
- 調査員 ・1年生に関して、例えば、挨拶をするとどんな気持ちになるのかなとか、そういったところは学習するが、こういったお話だけだと、どうしても実感として大切さがなかなか分からないという場面があったりするので、実際に演技をしながら、挨拶すると気持ちいいんだというふう実際に感じてみたり、それこそ、道徳で学んだことを日常生活でもやってみようと、そうすることで生活にもかえっていく。教科書で学んだことを生活にもつなげられるような意識をしながら、こういった道徳の教科書というものを使っていくものだと考えている。
- 議長 ・ほかに質問はあるか。  
《なし》

(調査員退室)

#### 【検討】

- 議長 ・感想や御意見をいただきながら検討を進める。
- 委員 ・別冊についてお話ししたいと思う。別冊があるのが日本文教出版だけで、別冊のメリットとしては、記録が1冊にまとまるので、子どもが振り返りとかをしやすくなっていると思う。ただ、中身を見ると、割とフォーマットが同じような形で決まっているので、縛られてしまうというのは自分が見て個人的に感じたところ。ほかの発行者については別冊がないけれども、教科書自体に書き込むスペースがあって、児童が考えたこととか思ったこと、それから振り返りとかを書くページがそれぞれ入っている。伊勢原市では今、別冊がない教科書のほうを使っているが、教員がいろいろ工夫して、教科書に書き込んだりワークシートとかノートとかを活用しているので、取りあえず、なくても大丈夫だし、今の形で言えば、教員はないほうで慣れていると思う。あと、ないことで、いろいろ教材を自由に使って授業内容を工夫できると思うので、自分としては、ないほうが使いやすい、工夫しやすいと考えている。
- 委員 ・情報活用能力、情報モラルの育成については、各者とも児童に非常

に身近になっておりますので、SNSの適切な使い方を取り扱っていると思った。光村図書、教育出版は、インターネット上の権利、個人の権利、プライバシーとの関係について取り扱っていた。学研では、SNS上の適切なやり取りについて、実際の場面に即して、あなたならどう返信するような形で題材を持ってきているのが印象的だと感じた。また、日本文教出版は、「目指せ情報モラルの達人」ということで、クイズ形式を取り入れて、情報モラルについて楽しみながら考えられるような工夫がされていると感じた。

○委員 ・各者とも、まず、学習を始める前に、道徳は何をする時間なのかという確認するガイダンスのページが出ている。こちらは学研だが、このようなものは各者にきちっと出ていて、年度の初めに、道徳の授業とはという確認をするのには大切なものかなと感じている。そして、東京書籍、教育出版、日本文教出版、光文書院は、「気づく」とか「考える」とか、学習の学び方についても、全学年で短い言葉で学習の流れが示されているというところが、分かりやすいと感じた。また、光文書院は、さらに深い学びにつなげるために、話合いの仕方とか考え方、ノートの整理の仕方といったものも最初の巻頭のページに明示されており、とても分かりやすいと思っている。また、光村図書についても、話合いをするコツというのが、小学校2年生からではあるが、みんなで気持ちよく話合うためのコツということで掲載されているという点が良いと感じた。

○委員 ・それぞれの教科書にも、各教材に合わせて問いや児童への投げかけが書かれているのはとてもよくて、特に東京書籍や日本文教出版、学研は、問いや投げかけの数を絞っていて、これは東京書籍だが、こういうふうに本当に短いところでの絞ってやっていくのは、価値理解を深めるとともに、自分自身の内省するというところに主にポイントを置いて授業することができると思った。その視点、各者で問いを見たときに、東京書籍や光村図書、学研では、自己を見つめられる発問例が掲載されているということは、自分ごととして考え議論するという視点でのヒントになるのではないかとということころで印象的などころがあった。それぞれ考えながら、それを共有していくということの大切さを感じられる教科書になっていると思う。

○委員 ・各者、カラーユニバーサルデザインやユニバーサルデザインフォントというのを使用して、子どもが見たときに読みやすい工夫がされていると思ったが、小学校で先生方が実践されている様子を見たときに、読みものが長いと、文章の内容を理解するのに結構時間を取ってしまって、道徳的価値について考えたりとか振り返ったりする時間がなかなか取れないというようなこともよく見かけた。文章量が程良く、理解の助けになるような写真とか挿絵とか図とか、いろいろ工夫されていると思う。そうやって見ると、結構いろいろ写真とか挿絵とか内容が理解できるように工夫されていると思った。あと、コラムだったり詩とか漫画とか、本当にただ長い文章だけでなく、様々な形式の資料があり、そういうのが良いと思った。

○委員 ・サイズがまちまちのところがあるというのは初めてじゃないかと。

AB判かA判かという話だと思うんですけども、道徳というのはそういう世界なのかなというわけではないんですが。いろいろ何か思考して、ぱっと見て国語の教科書っぽいという感覚はした。やっぱり文字で何かを伝えるのか、でも、1年生から挿絵が少ないものとかあったりとかするので、そういうところは、文字で入るよりは分かりやすい手法で道徳ということ伝えて、なかなか、言葉では伝えられるけれども、文字で伝えるのは難しい科目という印象がすごくあったと思う。家庭でもできるようなことを一生懸命書いていただけて、教育の中に入れていただけると、例えば、ふだん挨拶をするのは当たり前だけれども、あえて大きな声で挨拶をするとかいうことで、初めて道徳観というのが生まれるというところも、ふと思った。

○委員 ・小学校のときの道徳の授業を考えていて、小学校のとき、道徳の授業は結構、楽な授業というイメージがあったのを思い出したが、大人になってくると、結構、道徳って大事だったと思う。あと、道徳から、高校になると倫理になって、結局、生きていく上で大切なことというのが道徳なんだと感じている。当たりのことを当たり前、挨拶だとか、御礼を言うとか、そういうのが根本にあるので、この教科書は全部すばらしいと思うけれども、あとは教師がこの話をどうやって指導するかというのが、子どもたちが楽しい道徳の授業になるというふうに感じている。

○議長 ・ほかに御意見等はいかがかか。

《なし》

○議長 ・活発な御意見をいただき、感謝する。御検討いただいたとおり、各者それぞれに特徴や良さがあったことを報告させていただく。

(異議なし)

○議長 ・これで道徳の検討を終了する。

・以上で全ての種目について検討が終了した。事務局、願います。

○事務局 ・今回の検討結果、会議録については、まとめ次第、市のホームページで公表させていただく。

・会議録と併せて、教育委員に送る報告書を事務局でまとめさせていただく。

・情報公開請求があった場合、検討委員会委員の氏名を公開する。時期は、8月の教育委員会議で、7月の教育委員会議の議事録が確定する8月下旬以降となる。御承知おきいただきたい。

・それでは、閉会の挨拶を副委員長に願います。

○副委員長 ・挨拶

○事務局 ・令和5年度第2回伊勢原市教科用図書採択検討委員会を閉会する。

午後4時00分 閉会